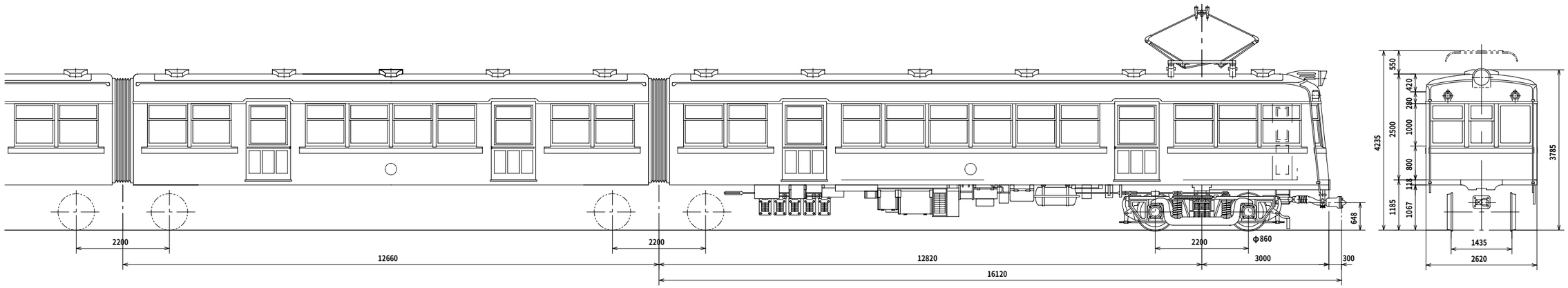
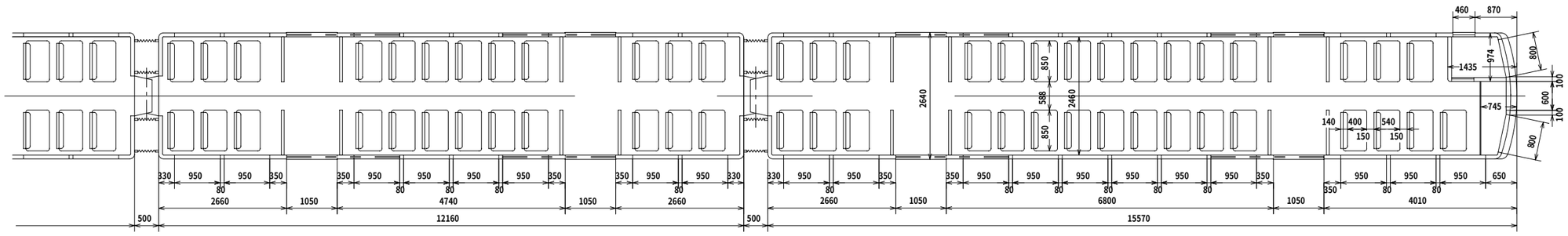
西日本鉄道　500形　形式図





1942年　2車体の流線型連接車として汽車会社で製造されたクロスシートカー
高速線用としては日本で最初の連接車で、なかなか進歩的な車輌と言える
1948年に中間車体を加え、3車体化されたが、ナンバーは1編成共通で、№501,2の2編成
各車体をA(パンタ付き)・B(中間)・Cと呼んで区別している
図は平面図のみ製造当初の転換クロスシート付きのもの、他は1955頃の姿とした